



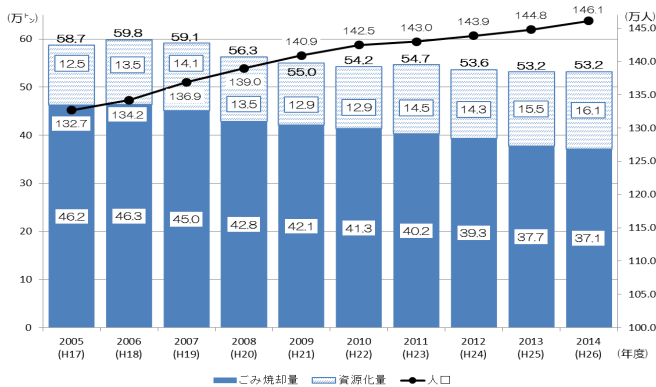
# 川崎市、生ごみの減量化・資源化に挑む

川崎市環境局 生活環境部減量推進課 担当係長 <sup>あずま</sup> 東陽一

川崎市は神奈川県の北東部、東京都と横浜市の間に位置しています。工業地帯というイメージがありますが、内陸部は稲城市や多摩市と接し、藤子・F・不二雄ミュージアムもある生田緑地や農地など緑豊かな自然環境も残っています。人口は平成28年8月現在約148万人、最近10年間で約15万人も増加しており、ごみの量も増えそうなものですが、実態はどうでしょうか。

## ごみの現状と「ごみ減量 未来へつなげるエコ暮らしプラン」

ごみの総排出量と人口の推移



川崎市では平成17年に「川崎市一般廃棄物処理基本計画（かわさきチャレンジ・3R）」を策定し、ごみの発生抑制とリサイクルの推進等を基本とした取り組みを進めてきました。その結果、人口増にもかかわらず、ごみ焼却量は平成17年度から平成26年度までに約20%減少し、4カ所のごみ焼却処理施設を3カ所体制に移行するなど大きな成果を生み出しました。

「家庭系の生ごみ」は平成17年度の1人1日あたり290.7g（推計）から平成26年度には170.3g（推計）に減少しています。

そして、平成28年度を始期とする新たな「川崎市一般廃棄物処理基本計画（ごみ減量 未来へつなげるエコ暮らしプラン）」を策定し、平成37年度までの2つの目標を掲げています。

- (1) 1人1日あたりのごみ排出量を10%削減。(998g ⇒ 898g)
- (2) ごみ焼却量を4万t削減。(37万t ⇒ 33万t)

家庭からの生ごみは減少傾向にあるとはいえ、なお大きな割合を占めています。生ごみの減量化・資源化の主な取り組みをご紹介します。

## 地域の特性を活用した生ごみリサイクルシステムの構築

### 【生ごみリサイクル活動団体助成】

家庭からの生ごみ堆肥を農地や公共の花壇で活用する市民団体に対して助成を行っています。上限額は10万円、1団体につき最長3年間助成を受けることができます。平成22年度以降16団体が延べ40回の助成を受けています。

### 【学校給食からの生ごみリサイクル】

小学校（113校）では、現在25校の生ごみを再資源化処理施設で家畜の配合飼料原料にリサイクルしています。平成22年度に3校で飼料化モデル事業として開始しました。



生ごみ堆肥を活用している花壇（麻生区吹込交差点）

この他、小学校に設置した大型電動生ごみ処理機による堆肥化モデル事業を実施し、児童の環境教育上の有効性があった一方、堆肥の搬出作業等の教職員への負担、堆肥の活用先、高い処理単価といった課題もあり、現在は1校で堆肥化を継続しています。



## 幅広い連携を図り、総合的な生ごみリサイクルの推進

### 【生ごみリサイクルリーダー制度】

生ごみリサイクルを長く経験し、知識を有している市民を「川崎市生ごみリサイクルリーダー」として認定し（現在16名）、市民へのアドバイザーとして各種の要請に無料で派遣し、生ごみリサイクル推進の大きな力になっています。個人からの相談対応のほか、自治会や各種団体が開催する生ごみリサイクル講習会にも講師として派遣しています。平成27年度は延べ936人の市民に相談、講習等を行いました。

### 【生ごみリサイクル相談会・講習会】

市民が気軽に相談できるように、区役所ロビーなどでリーダーによる生ごみリサイクル相談会を開催しています。生ごみリサイクル機器を展示し、市民団体と市環境局が編集した小冊子「チャレンジ生ごみダイエット」を配布しています。

また、生ごみリサイクル講習会も開催しています。リーダーがダンボールなどによるリサイクル手法を実践も交えて解説しています。

### 【小学校での環境学習】

一部のリーダーが所属している市民団体「環境を考え行動する会」が取り組んできた「小学校等におけるダンボールコンポストによる環境学習」を市環境局の事業としていくため、同会と連携して小学校4年生を対象とした環境学習を今年度試行しています。

児童5,6人で1個のダンボールコンポストを使い、1ヵ月半の堆肥化作業に取り組みます。生ごみリサイクルの普及には学童期の体験も有効であると考えられるので、終了後、点検評価して29年度以降の実施につなげていく予定です。

### 【かわさき生ごみリサイクル交流会】

本市では「川崎・ごみを考える市民連絡会」（平成24年に発展的解消）などによる長年の市民活動があります。これを基盤として市内12の市民団体と生ごみリサイクルリーダー、市環境局が協働して「かわさき生ごみリサイクル交流会実行委員会」を組織し、市民や団体がつながりを強めていくための交流会を毎年開催しています。今年も開催しますどうぞご参加ください。（16p事務局便り 参照）

### 【明治大学と連携した生ごみリサイクルの取組】

生ごみリサイクルの課題の一つに、内容物がわからない生ごみ堆肥は不安視されることがあります。そこで本市内にある明治大学農学部と市環境局が連携して、生ごみ堆肥の有用性の検証事業を平成25年に開始しました。市民モニターによるダンボールコンポストの堆肥を大学が成分分析し、比較のため同大の黒川農場で生ごみ堆肥区と化学肥料区を設けてコマツナ、ダイコン、トマトなどを栽培しています。藤原俊六郎特任教授によると、生ごみ堆肥には肥料成分は含まれているが、リン酸が他の成分に比べて少ないため、リン酸肥料を補充すれば十分栽培に利用できるそうです。11月12日（土）の黒川農場収穫祭で成果発表を行う予定ですので、どうぞお越しください。

このように川崎市では市民の自主的な取り組みを主として生ごみの減量化・資源化に取り組んでいます。私も自宅でダンボールコンポストを実践し、生ごみを堆肥に変えていく微生物の偉大な力に感心するばかりです。一人一人のごみ減量化・資源化の取り組みは、義務感だけでなく楽しさもあればこそより長続きするものです。生ごみリサイクルや堆肥活用の楽しさを伝えるような取り組みも必要ではないかと考えています。